HELLO!!!

外国人指導助手
ポール・ダイボール

It makes me sick ！（いやになっちゃう）

こんにちは。わたしたちの文化の違いを紹介するときが再びやってきました。覚えていてほしいのは「ある国では当たり前なことが、ほかの国では奇妙に見えることがある」ということ。それは、どちらが正しいか間違っているかということではなく、わたしたちは違うということ、それらの違いを理解することがお互いを分かり合う手助けになるということです。

今回は、「文化の比較」の続編として、日本とオーストラリアの労働システムを取り上げてみたいと思います。

⦿休暇を取らない日本人

世界のほとんどの人々と比べると、わたしたちはとても幸運です。なぜなら、わたしたちはいい給料をもらいます。普通の生活以上にぜいたくな生活をしています。毎日3回食事ができるし（時々それ以上）、服も買うことができるし、すてきなアパートに住んでいます。

しかし、どうしてこんなに豊かな生活ができるのでしょうか？

日本についてはあまり分かりませんが、オーストラリアやアメリカ、イギリスでは、たくさんの人々が良い労働条件を獲得するための争い（デモやストライキ）で亡くなりました。現在のわたしたちにとっては当たり前となったことの犠牲になったのです。現在も中国やインド、南米の人々が、同じようなことのために死ぬかもしれません。だから、日本では病気休暇や産前・産後休暇、有給休暇など、いろいろな労働者のための権利があるのに、それが使われていなかったり、それらの休暇を取ることがいけないことのように考えられていたりすることに困惑します。

⦿休暇を取るのは悪いこと？

オーストラリアでは、病気になると、病人は家でゆっくり休んで元気になるように勧められます。第一に、きちんと体を休めれば早く回復できます。第二に、ほかの人に病気がうつる心配がありません。第三に、体調を崩しているのに職場に行くと、生産的な仕事ができず、間違いが多くあったり、体調の回復までより多くの時間がかかったりします。だから、病人が家でゆっくり休みを取るのは、みんなにとって一番じゃないですか？

もちろん、病気だからといってずっと家で休めるわけではありません。病気休暇は１年間に10日しかありませんし、２日間連続で体調が悪い場合は医師の診断書が必要です。しかし、日本人は病気になると、あるいは手術後の回復期間中であっても、相変わらず職場に行ったり、病気休暇の代わりに有給休暇を取ったりしています。この状況はさまざまな理由で悪いと思います。まず、みんなはなるべく有給休暇を取りたくないので、病気でも仕事に来ます。それによりもっと病気がひどくなったり、ほかの人にうつったり、仕事の判断力が悪くなったりするという危険性があります。そして、病気休暇という権利がありながら、それを使わず、職場に奉仕しているのです。

⦿部下の健康を第一に考えて

わたしにとって、このようなシステムは不十分な管理体制を反映しています。部下の健康を第一に考え、部下が元気で幸せであることの利益に気付けないのは良くない上司だと思います。病気の職員が働いていると、同僚にうつること、生産性や仕事能率の低下、判断力の低下の危険性があることを気にしないのも、悪い管理体制の表れです。

ハートフルゆうてぃあ
財団法人内子町国際交流協会の情報紙vol.106

事務局　内子分庁３階
電　話　（０８９３）４４－２１１４
ＦＡＸ　（０８９３）４４－６１３７
E-mail　kokusai@town.uchiko.ehime.jp
ホームページ　http://utia.jp/

⦿レポート

新規事業「中国語講座」を終えて

講座の様子

21年度新規事業として、９月から４回にわたり、中国・西安出身の肖英博（イエインボ）さん（内子３）と当協会プランナーの大程奈々絵（なえ）さん（程内）を講師に招いて「すぐに使える中国語講座」を開きました。

講座では、あいさつなどの簡単な会話を学習。講師の発音を繰り返し聞いて発音の基礎である「四声（しせい）」を学び、発音の高低や強弱でまったく意味が異なる中国語の特徴を実感しました。また中国のテレビドラマを鑑賞するなど、中国の生活についても知る良い機会となりました。

そのほか、毎回、本場中国のお茶を味わい、最終回では水ギョーザを試食。コインが入った水ギョーザを食べた人には「福来たる」といわれ、驚きや喜びの中、講座は終了しました。皆さん、ありがとうございました。

内子町国際交流協会では、町内に住む中国人の皆さんと触れ合う機会を提供しようと、中国の旧正月にちなんだ「春節（しゅんせつ）」のイベントを行うなど、さまざまな催しを行ってきました。今後も、地域イベントを通じて楽しく交流できる企画を考えています。意見や要望があれば、ぜひお気軽に当協会へご連絡ください。

《参考》
○愛媛県外国人登録者数（20年12月末日現在）
　約80カ国　9,728人　うち、中国　5,678人（第１位）
○内子町外国人登録者数（21年12月末日現在）
　10カ国　40人　　うち、中国　26人（第１位）

お正月にお金を食べる！？

プランナー　大程奈々絵

中国では旧暦で正月を祝いますが、わたしが大学時代に訪れた陝西省では、大みそかと元日に、たくさんの水ギョーザを食べました。ギョーザは、「銀元宝（ぎんげんほう）」という古代の銀貨の形に似ており、取引を意味する「交子（ジャオズ）」という文字の「交」の字に「食」の文字を加えて「餃子（ギョーザ）」という名前が付けられたといわれています。新しい年にお金がたくさん入ってくるようにと願いを込めて、お金の象徴であるギョーザを正月に食べるようです。ただ中国はとても広く、地域によって正月の祝い方もさまざま。粉ものを主食とする北方でギョーザが多く食べられているようで、米を主食とする南方では異なります。中国人と話す機会があれば、「么年吃什过（クォニエンチーシェマ）？（お正月に何を食べますか）」と尋ねてみては。知らない中国が見えてくるかもしれません。

出来立てのギョーザを試食